

# 非核の政府を求める 石川の会 ニュース

〒920・0848 金沢市京町二八の八  
石川民医連労働組合気付  
☎076・251・0014  
郵便振替 0076・0・15689

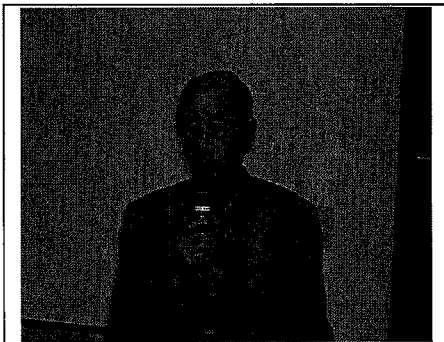
## 非核五項目

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める②国是とされる非核三原則を厳守する③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する④国家補償による被爆者援護法を制定する⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

### 福島原発事故 緊急講演会

『何が起ったのか？』

「これからどうなるのか？」



四月十二日の夕刻、日本科学者会議・石川支部の主催で、福島原発事故の「緊急講演会」が金沢・近江町いちば館で開催された。(写真 開会の挨拶をされる飯田克平先生)

講師の日本科学者

会議京都支部・深尾正之氏は、冒頭の挨拶で、「…原発の災害は、目に見える建物や器物の破壊とは異なり、放射線が、人々の生活を長く蝕む可能性がある。」

ここでは、事故の経緯を理解するために必要な原子力に特有の問題を説明し、福島第一

発電所で何が起ったのか、放射線の人々への影響、今後の見通しについて述べる」と話されました。会場は通路にまで座り込んで聞き入る人であふれ、「志賀原発の近くに住んでいる」と質問される女性もあるなど、福島から遠く離れている金沢でも緊迫感がみなぎった。

(報告 永山孝一)

## 福島原発で何が起きたか

飯田 克平 (日本科学者会議石川支部)

あの大地震・大津波、原発災害から一ヶ月があつという間に経過しました。大地震・大津波は「一瞬」で、今や困難な中で新しい再出発が始まっています。福島原発事故では、同じように「一瞬」で事故がおきましたが、災害は今なお変転し、進行中で、終結点もみえません。津波はやがて引いていきます。都市や山林の大火災では最悪でも燃え尽きて終わります。しかし、原発災害では、原子炉

の中にはウランや放射性物質がのこっており、周辺は放出された放射性物質によって汚染されています。災害が継続している状況です。これが原発災害の厳しさです。

はじめに

福島原発事故では少なくとも①「安全神話」への固執、②大事故(原発では過酷事故)対応要求の無視、③大地震・大津波の指摘の軽視、といった対応に責任があつた指摘できるでしょう。

1、原発の大事故は基本的に、暴走事故と冷却材喪失事故の二種類

### 暴走事故

原発の燃料は、ウラン二三七です。そのウランが核分裂し、その時に出るエネルギーで水が加熱され水蒸気になります。核分裂から次の核分裂への進行を調節し、その水蒸気が発電機を回転させて発電します。その調整が不可能になり、次々と核分裂が進むと爆発が起ります。これが暴走事故です。チェルノブイリ事故(八六

年、旧ソ連)です。

### 冷却材喪失事故

もう一つは、冷却材喪失事故です。ウランの核分裂のときに出るエネルギーによって、水が蒸気となり、発電機を回しますが、同時に水は、分裂の時にでたエネルギーを奪ってウランを含む炉心を三〜四〇〇度に保ち、炉心が高温にならないようにする役割を持ちます。もし炉心から水がなくなると炉心の温度がどんどん上昇して、ウランが封入されている燃料棒の被覆管の金属が融解し、放射性物質(ヨードなど)が周辺へ広がります。さらに炉心溶融へと事故が進展します。スリーマイル島(七九年米国)でおきた事故がこれにあたります。この時は、運転員が冷却材喪失に気付き、水を供給したので途中で回復することができました。

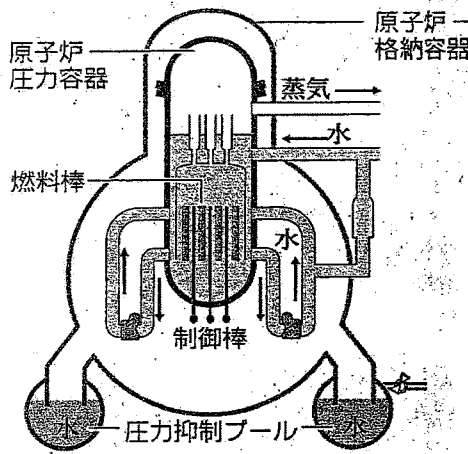
### 2、今回は地震と津波による電源喪失に起因とする冷却材喪失事故であった。

#### 2-1 原発の仕組みと火力発電所との違い：

原発のウランは、九〇%以上のウラン二二三七を含み、一気に核分裂をおこなうことができ、原子爆弾となります。

原発のウランは数%のウラン二二三七を含み、図に示すように、制御棒を引きおろすと核分裂が連続して起こり、周辺の水が加熱されて水蒸気となり、図に示されているように水蒸気が発電機へ送られ発電が始まります。逆に、図に示されている状態、燃料棒の間に制御棒が挿入

されると核分裂がとまり、発電も終了します。原発は、ウランの核分裂のエネルギーで水を加熱するが、火力発電では石油の燃焼で水を加熱するという点が違います。しかし、違いはこれだけではありません。



沸騰水型=福島原発

実際には次の2点で大きく違います。

第1 火力では、石油の供給を止めて発電を中止すると、ボイラーの中の可燃物はなくなります。原発では、停止した時ウランは原子炉中に残っています。ウランが核分裂しないように監視しなければなりません。

第2 原発が停止した時、ウランの核分裂は停止しますが、放射性物質が核分裂を継続してエネルギーを出し続けているので、継続した冷却が必要であります。

### 3、福島原発第一はこうして事故になった

今回の大地震が起きたとき、福島第一原発のうち四号、五号、六号の三機は、定期点検中で原子炉の中には燃料棒はなかった。

地震が起きると

#### 3-1 二つの事故の連鎖で重大事故へと発展

1 地震動で、引き下げられていた制御棒が引き上げられ、予定通り原発は停止した。

2 <第一の事件> しかし、鉄塔が倒れ外部からの電力供給が停止してしまいました。(停止後も、炉心を冷却する水の循環のため、外部からの電気の供給が必要)

3 このときのための非常用発電機が作動し、順調に水の循環と冷却を再開した。

4 <第二の事件> ところが、しばらくして津波(二五m)が、低いところに置いてあった非常用発電機を襲い、水浸しにして停止させてしまいました。

5 冷却が行われず、炉心の温度がどんどん上昇した。電源一、二、三号とも冷却水を喪失し、冷却材喪失事故となった。

6 炉心の温度があがり、水は蒸発し、燃料棒が水面から露出し高温となり、被覆管の金属が熔解した。高温で水と被覆管の金属が反応して水素が発生し、水素と酸素が反応して水素爆発する恐れがあり、建屋の空気を放出(ベント)してそれを逃れようとした。翌一二日 水素爆発が起きて、放射性的ヨードやセシウムが放出されてしまった。

3-2 近傍の福島第二原発、宮城県の女川原発は外部電力を喪失しましたが、幸い非常用発電機が作動し、炉心を冷却でき、原発災害へ発展しませんでした。

(最近の巨大な余震で女川原発などが、外部電源を喪失しました。ある程度以上の地震に対して外部からの電力の供給が弱いことが示されたように思われます)

4、福島原発第一事故のその後と現在

1 水素爆発(一号一一日、三号一三日) 電源喪失から冷却不可能となり、水素爆発で原発建屋破損。四号の核燃料プールでも水素爆発がおきる。

2 遂に海水による冷却に踏み切る。一号一一日、二号一四日、三号一三日

3 核燃料プールも冷却されず、沸騰。二号一七日、三号四号一六日、プールへ注水開始。

4 二五、二六日海水を真水に切り替える。二七、二八日仮設ポンプに切り替え給水。

冷却方式は、海水から真水へ、さらに仮設ポンプへと改善された。しかし、その間に燃料棒の破損から燃料棒の溶融へと広がりました。さらに、原子炉建屋内の汚染から大気、大地、海域への汚染が広がった。

4-1 現在と将来へ

福島第一原発は、とにかく冷却ができるようになり、第一の段階をのりきりました。現在は、循環冷却水による炉心の冷却に到達すること

が目標になっています。しかし、そのためには作業ができるようにするために、建屋内の汚染を取り除き、建屋内の汚染水を(海域に捨てないで)特別なところへ確保するという困難な課題に直面しています。この見通しは立っていません。半年以内の実現できればと、地元のためにも期待したいと思います。

4-2 環境汚染

1 水素爆発などによって周辺と世界に放射性物質飛散、さらに建屋がなくなり、常時飛散している可能性も。

2 風向、降雨(特に初期)によって雨滴とともに地上へ降下。気象との関連が強い。

3 したがって、局地的に汚染の高いところが出現する可能性が高い。

4 空気、土壌、水の汚染と食用栽培植物、食用家畜類とその製品の汚染の調査(各核種と全被曝線量の調査)。

5 広い範囲の海流調査と海域汚染と海産物の汚染調査

むすび

今までは、環境汚染に対処するために、避難地帯が設定され、また、食物についての制限も加えられました。これらは一般の人の被曝線量の限界としての1ミリシーベルトを実現することが目的であったと思います。

今後の状況と対応は、第一に、原発と燃料プールが安定に保たれること、第二に、避難地帯

に帰れるかどうかの問題である。それは、汚染の拡大がなくなること、寿命の長い放射性物質による土地の汚染の広がりとその量にかかっていると思います。

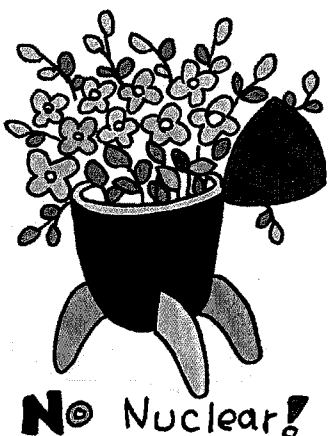
日本科学者会議石川支部  
第二回緊急市民講演会 ご案内

放射線防護学の第一人者  
日本大学歯学部専任講師の

野口邦和氏を迎えた連続講演

演題 福島第一原発事故と環境汚染  
日時 五月七日(土)午後一時半〜四時  
会場 近江町いちば館四階集会室

演題 放射線の人体への影響  
日時 五月八日(日)午前十時〜正午  
会場 金沢市保健所三階ホール  
主催 日本科学者会議石川支部



## 東日本大震災救援募金を

引き続き受け付けています。

◎郵便振替 00760・0・15689

◎口座名 非核の政府を求める石川の会

※非核の政府を求める会(全国の会)を通して被災地対策本部へ送ります。

・四月二〇日に一三名様分、四万五千円を送金しました。

## 被災地とともに生きる

小野栄子

私の出身は福島県伊達市(福島第一原発からおよそ60km)で、大学入学と同時に金沢へ来ました。現在は医療・福祉制度の改善を求めて活動する保険医の団体、石川県保険医協会に勤めています。震災から1カ月を目前にした4月8日、帰省も兼ねて、福島と宮城の保険医協会を訪れてきました。そこで見えてきた被災地の様子を報告します。

福島県保険医協会では、原発の影響で先行きが見えないため、原発付近にいる会員の安否確認訪問を細々と行っているという印象でした。原発から20km圏内には会員が

40人、30km圏内には90人、このうち震災後に退会された方が数人、開業医から勤務医に転向するという方も多いようです。また、30km圏付近でせつかく診療所を開いていても患者がいなかったため、ほぼ休診状態というところも。第一次産業が基盤の福島で農業や漁業ができなくなった場合、福島の復旧と復興は困難を極めます。

福島のこれからをどうするか。高校時代の師は、福島は「五重苦」に苦しんでいると言っていました。地震、津波、原発、風評被害、差別。後ろ3つは人災で、本来無くて済むものです。石川県内では福島産をはじめ被災地産の生鮮食品は出回らなくなりましたが、福島県には福島産のトマト、キュウリ、いちご、肉、たまご、ほうれんそうまでスーパーや道の駅で売られています。三陸産の海藻も出ていました。「地産地消」が流行りの昨今ですが、放射線物質がついたかもしれない福島県産は、福島県人で消費せよと言うのかと、怒りすら感じました。

宮城県保険医協会では、会員訪問を行っているものの安否確認が進んでいません。広範囲の被害、全半壊に加えて、流失まで。被害状況把握には時間がかかっています。また、1カ月経過しても余震や断水等の影響により、診療再開のメドが立たないところが多いようです。4月初旬までは請求方法にも混乱が生じていたとのこと。

このようななか、宮城協会では、会員への見舞金届けと資料提供活動の他に、地域医療をいかに再建するかについて話し合っていました。仮設住宅も建てられないような地域で、いかに早期に保険診療を行えるようになるか。巡回診療車の条件緩和等、理事長を中心に熱心に議論していました。他県からの医療支援はもちろん必要ですが、地元の方が積極的に患者に目を向け、地域に入っているように、ほしい、そういう思いを強くもっているようです。

被災地で遭わなければ、地震の本当の怖さはわからない。津波の現場を見なければその凄まじさと哀しみを、福島で過ごしてみなければ原発の「訳の分からない恐怖」を理解できない、そう感じました。一方で、被災地にいる皆さんと「ともに生きる」ということ、それが今後何より必要なことだとも感じました。特に原発問題。原発乱立の歴史と現在起きている事実の共有、責任転嫁の構造を自らに省みることに、希望を語り、未来を創っていく作業、それを福島県外の人も共有すること。これが、私が思う「ともに生きる」です。この金沢で、「被災地に生きる人々とともに生きる」ということはどういうことなのかを考え続けています。まずは、「ノーモア・フクシマ」の声を挙げていこうと思っています。

### 東京電力福島第一原発事故に対する声明 核戦争を防止する石川医師の会

(二〇一一年四月十二日)

東京電力福島第一原子力発電所の事故は最悪のレベル7に評価されることになった。三月十一日の地震と大津波の被害に加え、原発事故の収束が長引くなかで放射能の人体への影響に対する不安と恐怖は被災地の住民のみならず、国内外に高まりつつある。

核戦争を防止する石川医師の会は、ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャをかかげて運動を進めてきた被爆者の心情に共感し、人間の生命と健康をまもるために核戦争を防止し、核兵器を廃絶するために市民のみならず活動を進めてきた。

私たちは今回の事故による放射能汚染が極めて深刻な事態になることを懸念している。政府はモニタリング結果を医用レントゲン検査時の数値と並べて「ただちに人体に影響するレベルでない」としてきたが、揮発性の高いヨウ素<sup>131</sup>、セシウム<sup>137</sup>、<sup>134</sup>などが早期に大量に放出され、拡散したこと、事故現場にはウラン、ストロンチウム、プルトニウムなど大量の放射性物質で汚染されていることは明らかである。

四月十二日になって原子力安全・保安院と原子力安全委員会は今回の事故で大気中に放出された放射性物質総量は数十万ベクレルに達していると報告したが、政府が安全・安心を言いたいがために都合のよいデータのみを公表し、かえって

被災住民・国民の不安・恐怖を増大させ、放射能被曝と汚染被害の拡大をまねいていること、さらに急性の外部被曝のみに矮小化して未来の子供たちに影響を与える内部被曝については取り上げていないことに強い憤りを覚える。

核戦争を防止する石川医師の会は、今回の事故による放射能被害の拡大を防ぎ、再び同様の事故を絶対起こさないために、政府と東京電力、石川県、北陸電力に以下の点を強く要望する。

記

(1) 政府・東京電力は最悪の事態である炉心溶融・再臨界を避けるために国内外の専門家・技術者の総意を集めて事故収束を図ること。

(2) 政府は緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステムをフル稼働させ、積算外部被曝放射線量を公表するとともに退避などの具体的な被曝回避計画設定、住民への説明、実施を行うこと。

(3) 石川県・北陸電力は志賀原子力発電所の運転再開を中止すること。

(4) 各関係機関は核兵器に転用されうるプルトニウムをはじめ、処理不能の放射性物質を大量に生み出す原子力発電計画を即刻中止すること。そして電力の需要を見直し、国内外で取り組み始められている再生可能なエネルギーの活用政策を早急に検討すること。

### 問い直される

#### 固有の風土からの背理

思えば、二〇〇八年の秋はリーマン・ショックの衝撃が世界を駆け抜け、いわゆる「グローバル恐慌」に突入しました。仕事で関わりあった会社も民事再生に入るなど、少なからぬ影響がありました。二〇一〇年の春にはユーロ圏からのソブリン・リスクが取り沙汰され、ギリシャをはじめEU諸国の動静が世界の耳目を集めました。二〇一一年に入るやチュニジアでの抑圧体制への抗議の焼身自殺を契機に、中東・北アフリカ地域から変革の波が起こっています。そして、二〇一一年のこの春、私たちの国では、歴史的象徴からも予期されていた「東日本大震災」による災禍に遭遇することとなりました。

\*

この三年間という時間の経過は井村喜代子氏(慶大名誉教授)が『世界的金融危機は続いている』(雑誌「経済」二月号一〇頁)で述べたように「世界はまさに混沌たる状況にある」——この「経済」誌は二〇一一年三月一日発行で東日本大震災(三月十一日)の十日前であるが、ここに述べられた「混沌」の意味がいよいよ深刻さを増してきたのです。

「混沌」の中に生きる私たちに求められる

ものに「科学性」があります。私たちはその職能のゆえ建築や都市のあり方に深く関わりますから「科学性」はもとより、日頃「人と風土からの発想」を原点と考えています。例えば、二〇〇八年の春には、能登地域の振興を願っていかかわ自治体問題研究所でのそれまでの調査活動をまとめたブックレット『能登に生きる人々』（武田公子十しかわ自治体問題研究所・編著、自治体研究社・刊）の編集に参加していた時にも感じましたが、私たちは日本という国土、北陸・石川・金沢という地域の歴史的・風土的な条件から離れて自らの文化を築くことはできないのです。

\*

わが国では明治以来、文明開化、西欧化、「坂の上の雲」、モボ・モガ、五族協和、十五年戦争、高度経済成長、日本列島改造、輸出競争力、貧困と格差、世界経済危機、そして「東日本大震災」……と続いてきた、それぞれの時代の「空気」が、近・現代日本を象徴していると思います。そのうえこの弥生十一日には、近く一五〇年にもならんとするわが日本において、固有の風土からの背理を特徴とした文化的な営みは、根底から問い直される事態を迎えているのです。

このように激動する時代にあつて、この国と地域に生きる人々が、ともに喜びあうことのできる地域と社会を願ひ、私たちが生きる

現実世界で知ることの出来る僅かな情報からも「科学性」に立脚した判断ができる糧となるよう、学習を続けてゆきたいと願っています。  
(永山孝一)

《連載》対談——狂気の時代——(二)

再びそれを繰り返さないために

開催 金沢市黒田町 れとろぎやらりい

柳心庵にて 二〇一〇年六月七日

出席者

蒞 昭三：城北病院名誉院長、反核医師・医学者のつどい代表世話人

一塚 保：れとろぎやらりい柳心庵 代表

司会者：永山孝一：金沢建築とまちづくり

研究所会長

……前号からの続き……

蒞 あなたの文書のなかで、日本は「上からのファシズム」と書かれています。ドイツは「下からのファシズム」。このところが印象に残りましたが。

一塚 ヒトラーはオーストリアの下層中産

階級の出身、第一次大戦に従軍した一介の伍長から、後に激烈な大衆運動を展開して全ドイツの支配者になりました。それとは対照に、日本では軍部、上層支配階級が独占資本と結びつき、絶対天皇制を利用して上から国民に網をかぶせる形でファシズムを形成したと私は捉えています。

ドイツではワイマール共和国時代にナチに類似した群小のさまざまな国粋主義政党があつたのですが、ヒトラーがそれらを収斂してナチス党の大衆運動一本に組み替えていったのです。

ヒットラーはアーリア民族が唯一の民族だと叫んで1932年に選挙で政権をにぎってゆく、つまり下からのファシズムですが、日本の場合は時の政権そのものがファシズム化して国民全体を巻き込んでいった上からのファシズム、その両国の違いが、日本とドイツの国民性の違いとどうかかわっているのですか。

蒞

一塚 日本では十五年戦争の一連の戦争事実を全て一纏めにして、「当時は天皇陛下の命令は絶対だったから、個人としてはどうにも仕方がなかった」という言い分が共通認識になつていようです。戦

争を経験した大方の人々からすれば、これは間違いなく事実であったのです。

しかしドイツではオーストリアを併合した時のヒトラーの有名な街頭パレード写真に見られるように、かなり多くの国民がナチスを熱狂的に支持した時期がありました。これはナチスが巧妙なプロパガンダを駆使して国民を集団催眠にかけたことにもよるのですが、それだけでは到底説明がつきません。

当時、ワイマール共和国下で第一次大戦敗北による莫大な弁償金を科せられ、また世界同時不況による天文学的インフレと重なってドイツ人の生活は疲弊し、失業者が街に溢れていました。

ナチスはこれらを巧妙に政治的に利用し、すべての悪の根源としてユダヤ人をスケープゴートに仕立てるとともに、旧戦勝国への報復感情を煽り、一方ではアウトバーンの建設などの公共事業で失業者を一掃しました。社会底辺く中産階級の生活安定化で大衆を取り込み、急激な再軍備で軍部や独占資本を喜ばせ、「ドイツ民族の誇りと自信を取り戻す」プロパガンダは、ヒトラーの天才的な演出により、人々の心を虜にしてみましたのです。

一方、日本でも狂信的な国粹主義に取り憑かれた人々は少なからずいたので

すが、彼らの組織運動についてはナチス党のように社会下部から自立的に盛り上ってきた場合は、絶対主義的な支配階級の象徴である「官」からは警戒され、時には排除され、つまり「官」を無視しての運動は成り立たなかったと思います。当時流行の「ハイカラな」ナチス運動の影響で「草の根の大衆運動」をいくらか装っていても、常時「官」からの監視と誘導があったと私は見えています。日本では昭和以前の設立のものも含めて、さまざまな官製ファッショ組織がありました。したが、常に「官」にコントロールされ、監視され、上からの命令で動くが、下層の構成員の庶民は受動的であった「大衆運動組織」がほとんどであったと思います。これが日本のファッショ運動の特徴ではなかったでしょうか。

(次号に続く)

### 原水爆禁止世界大会めざし

#### 県内の国民平和大行進予定

二〇一一年国民平和大行進は六月一二日から一七日まで能登路コースを歩きます。

六月一八日には富山く広島コースの平和行進を具境の俱利伽羅で引き継ぎを受け加賀路を歩き、六月二四日あわら市吉崎町で福

井県へ引き継ぎます。能登路コース、加賀路コース予定案が非核・石川の会も参加する実行委員会から発表されました。

#### ◎能登路コース

六月一二日(日)輪島市善龍寺く朝市通りく市役所。能登町。珠洲市。

一三日(月)穴水町。志賀町。中能登町。

七尾市役所く七尾駅く七尾市役所。

一五日(水)宝立志水町。羽咋市役所

く羽咋駅く羽咋中央公園。

一六日(木)かほく市役所く宇ノ気駅

くかほく市役所。

一七日(金)内灘町く鶴ヶ丘中央公園

く鶴ヶ丘小学校く非核平和宣言塔。

#### ◎加賀路コース

一八日(土)津幡町俱利伽羅く越中坂

く中津幡く津幡町役場。

六月一九日(日)津幡駅前く森本駅前。

卯辰山(平和の子ら像)く金沢市役所。

二〇日(月)森本駅前く東金沢駅口く城

北クリニック。金沢市役所く片町

有松。

二一日(火)有松貴船神社前く三馬く野々

市町役場く松任若宮公園、

白山市役所。

二二日(水)川北町役場く能美市役所く

松市役所。

二三日(木)小松市役所く本折町く今江。

加賀温泉駅くジャスコく加賀市役所。

二四日(金)加賀市役所くあわら市吉崎町  
(福井県へつなぐ)。

各地の集合、行進予定時刻は県実行委員から後日発行の行進予定表又は現地実行委員会でご確認下さい。

通し行進者は東京原水協の櫻井正男さんで、県内行進者は石川県平和委員会の藤田和彦さんです。

### 県内の通し行進者の決意 体力と気力の保持を兼ねて

今年も歩きます。十二年間、社員玄関口で行ってきた「6・9行動を続ける会」が潰され、「コンチクショウ！いつかは」と、ざーっと思ってきました。定年退職してから、体力と気力の保持も兼ね四回目の挑戦です。

今年、初孫のYちゃんとそれに連なる子供たちに「核兵器のない平和な未来を残してやりたい」と、強く意識して歩きます。行進コースでの新しい発見を楽しみにして…。  
みなさん 一緒に歩きませんか。

(石川県平和委員会 藤田克彦)

### 《今後の予定》

・四月二十八日(木)：緊急講演会「福島第一原発事故でどんなことが起こっているのか」  
(近江町交流プラザ四階集会室)

・五月三日(火)一三時半：五・三憲法施行記念県民集会「小森陽一東大教授講演。九条の会事務局長」(文教会館)

・五月十九日(木)一五時～一七時：非核・石川の会常任世話人会(近江町いちば館)

・六月五日(日)一三時：「はだしのゲン」上映会・岩佐幹三氏被爆証言を聴く会(教育会館)

・六月八日(水)一五時～一七時：非核・石川の会常任世話人会(エムザ内・ITビジネスプラザ武蔵)

・六月十一日(土)一〇時半：非核の政府を求める会の第二六回全国総会(東京・主婦会館プラザエフ)

・六月二十二日(日)一〇時：石川県母親大会(女性センター)

・六月二十二日(日)一七時(金)：平和行進能登コース  
島コース…

・六月二十五日(土)一〇時～一二時：非核石川の会第二三回総会(近江町いちば館四階研修室①)

・七月二三日(土)一〇時：反核平和おろづる市民のつどい(石川県教育会館三階ホール)  
秋葉忠利氏(前広島市長)の講演が確定!

・八月四日(水)～一七日(水)：原爆と人間展(県庁一九階展望ロビー)

・八月七日(日)一三～一六時：横井久美子コンサート(芸術村ミュージック工房)

### 《編集後記》

・「安全神話」崩壊。東日本大震災の前になす術もなく制御不能になり、放射能の危険を全世界に示した原子力発電所。人類は改めて、核の危うさを実感したといえよう。

・町会の話のついでに、隣人に会報をお渡しした。翌日の午後、ご主人(六十九歳)にお会いしたら「全部読みました。たいへん参考になりました」とのご感想でした(一)。

・年度末年度初めの上、さらに選挙も重なり、大変に慌ただしい時期でしたが、なんとか発行にこぎつけました。まだまだ試行錯誤ですが、非核の会の出番と思つて頑張ります(な)。

前一五二号ニュース、「福島第一原発事故について」の記事中、一文字抜けていました。一頁三段目下より八行目、「二〇が原子炉…」を「二〇tが原子炉…」に加筆修正し、お詫びいたします。